

仲間たちの仕事にねがいを込めて 食を通じてつながる

広島 もみじ福祉会 第三もみじ作業所

九内康夫

「食」の作業所 第三もみじ作業所

社会福祉法人もみじ福祉会は、障害のある仲間たちが仕事を通じて、社会とつながっていくことを大切に、1980年に広島で初めての無認可作業所としてスタートしました。現在でも「夢をかた



盛りつけ中



朝の会終わり、エイエイオー

ちに」を掲げて、働く場、生活の場づくりといった幅広い事業にとりくみ続けています。

第三もみじ作業所は広島市西区に2011年に開所しました。パン・クッキー・配食事業といった「食」に関わる仕事に28名の仲間が働いている就労継続支援B型事業の作業所です。法人の事業所で作っている商品を扱うお店も併設されています。

配食グループの日常

配食グループは、食事づくりを仕事としてしています。仲間10名が地域の作業所等にお昼のお弁当を製造して配達しています。グループホームに夕食を届ける仕事もおこない、日に約140食の食事を製造しています。お弁当を作る厨房では、

野菜のカットや調理、盛り付け、洗い物や掃除、片付けなど、目まぐるしく一日が過ぎていきます。

毎日、忙しく過ごす中でも仲間同士がお互い評価し、認め合える関係がつけられるように意識してとりくんではいます。仕事終わりには話し合いの時間をつくり、その日の仕事の中の気づきを共有し、仲間同士では評価に結びつきにくい事柄、小さなことでもみんなの力になろうとしてやっている仕事にも焦点を当てて支援していくようにしています。

仲間同士が「あこがれる」 存在・関係づくり

商品の質を向上させていくうえで仲間集団の存在は欠かせません。「〇〇さんのやっている仕事を今度は私がやってみたい」といった広がりはグループ全体の意識向上や仲間同士の技術の継承にもつながります。あこがれていた仕事を実際にできた時の達成感や充実感は仕事の意欲につながります。切磋琢磨という言葉はありますが、競争ではなく、みんなでもいいもの（お客さんに喜ばれる商品）を作りたいという連帯感につながる関係づくりを進めていきたいです。